

2022年9月21日(水)

老球の細道690号

### バスケットボール イズ マイ ライフ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

坂下ミニバスケットボールクラブ主催の「坂下キャンプ」に今年もクリニックを依頼された。「坂下キャンプ」というイベントは、会津地区内のミニ男女8チームが集い、勝利のみを目指すのではなくリーグ戦とクリニックを行い、中学校、高校のみならず、社会人になってもバスケットボールを選手、コーチ、保護者としての支援を続けることを目標としている。

先日第2回が行われた。その時保護者から私の日に焼けた姿に対して声をかけられた。「先生、凄く日に焼けていますが、この夏ゴルフをかなりやったんですか?」。8月にもある指導者から「先生、日焼けサロンに通っているのですか?」と言われている。私は他人から相当誤解されて見られているとこの時痛感した。私は誤解を解くためにすぐに返答した。「毎日孫と虫捕りをしたおかげで日に焼けたのですよ」と。

7月末から現在まで孫息子と一緒に毎日お昼過ぎの炎天下の中、バスケットボールで使用していた短パンとTシャツ姿で虫捕り網と籠を抱えて運動公園、近所の農道を荒らしまわった姿は誰も想像できないだろう。

[閑話休題:バスケットボールで学んだ人生訓「数打ちや当たる」。今まで絶対採ることのできなかったギンヤンマをある日突然7匹ゲットすることができた。虫捕り網2台を壊し、右手首を腱鞘炎未満まで追い込んだ爺の執念の賜物であった。翌日これまた不可能だと思っていた孫息子が合体して油断していたギンヤンマをゲットした。特に孫息子が得た自信は大きく、幼稚園の先生から「給食で食べるのが早くなった」「運動会の走る練習を本気で取り組むようになった」「何事にも積極的になった」とコメントをいただいた]

何事も「どうせ無理」だと思っていたことが努力や繰り返すことによって可能になってしまうことは感激であり人生の至福の一時である。バスケットボールのアップセット(番狂わせ勝利)を起こしたに匹敵する出来事だったので話が横道にそれてしまった。話を修正。

先の朝日新聞で筑波大学教授の山口香さん(柔道)がスポーツを途中で止めてしまう風潮に対して次のようなコメントを掲載した。

【中学校の部活動では基本的に夏の全国中学生大会をめざし、予選が終わると3年生は引退する。受験があっても週1回くらいやればいいのに、目的が試合になっているから、試合がなくなるとやらない。自己研鑽のためとか、汗をかいたら気持ちいいからとか、そういう理由でスポーツをする文化は、日本ではまだまだ、薄い。スポーツをすることで、人生は豊かになる。そういう考えが広まってほしい】ノーベル賞受賞の山中伸弥教授は大学受験の前日まで柔道部の練習に参加していたことは有名な話である。

生涯バスケを実現するためにはミニの時代のコーチングが重要である。今回のキャンプも勝利よりもクリニックで学んだことをゲームで活かすことが目標。ゲーム終了後コーチミーティングも実施した。バスケ嫌いにならず、ずっと好きなままでいてほしい。